隊員の声

〈防衛医科大学校　医学科〉

防衛医科大学校　医学科　3年

小林　龍幸（こばやし　りゅうき）

Profile　31年4月入校

【入隊動機】「最後の砦」のような重要な役割である自衛隊に自分が貢献し、国際的な医療活動にも携わりたいと考えたため

【目　　標】医師としてそして自衛官として一人前になれるよう、一生懸命励んでいきたい

【出 身 校】立命館慶祥高等学校

「防衛医科大学校ならではの教育」

私は、平成31年4月、防衛医科大学校に入校しました。高校時代、将来は医師として一人でも多くの人を救いたいと考えていましたが、被災し負傷した人々などに適切な医療を届ける医師たる自衛官を育成する防衛医科大学校を知り、興味を持つようになりました。元々自衛隊には「最後の砦」として重要な役割を担うようなイメージを持っており、そこに自分が貢献し、国際的な医療活動もしてみたいと思うようになり、入校を決意しました。

防衛医科大学校では、医師としての勉強だけでなく、幹部自衛官として必要な資質を身につけるための訓練なども行われます。訓練は多岐にわたり、学生生活は忙しいですが、その内容はどれも興味深く、一般の大学で得難い経験や教訓が得られるものばかりです。その中でも全く泳げなかった私が、訓練を重ねて不安を乗り越え、4kmを泳ぎきれたことは、とても良い経験になり、自信に繋がりました。

また、私は入校当初、常に気負っていましたが、忙しい学生生活を送る中で、一生懸命やる時と休息の時のメリハリがつけられるようになったのも良かったことの一つです。

防衛医科大学校の魅力は、医学生であると同時に団結を重んじる自衛隊員であるため、同期を大切にし、心から信頼できる仲間が得られるということです。この強い絆は、在学中のみならず、卒業後もお互いを切磋琢磨し成長させる心強いものです。また、本校では、他の医学部では学ぶことのできない自衛隊ならではの医療を学ぶ授業もあります。訓練では自衛官として部隊を指揮することも習得します。3年生になり、医学の勉強も臨床で扱う内容に近づきました。まだまだ修練は続きますが、医師としても自衛官としても早く一人前になれるよう、これからも一生懸命励んでいこうと思います。

最後に、一人でも多くの方が防衛医科大学校に興味を持ち、本校に入校しくれる北海道出身者が増えてくれると嬉しいです。

【課外も講義内容について討論】（右が本人）

【信頼できる仲間と共に】（左から２人目が本人）

防衛医科大学校「医学科」卒業後のキャリアパスの一例

防衛医科大学校は、学費無料 のほか、衣・食・住が無料で提供 されます。さらに、特別職国家公務員の身分のため、学生手当月額１１７，０００円 と 期末手当年２回 支給され、経済的な負担がなく、充実した就学環境で医師を目指す事ができます。

※卒業後勤務年限が９年間を満たないで離職する場合は、卒業までの経費を償還しなければなりません。

	卒業～国家資格取得～初任実務研修 24～26歳			専門医研修 28～30歳		博士号取得 37～39歳
医師としてのキャリア	医師国家試験	国家試験発表	総合臨床医（総合診療医）	専門医研修		博士号取得
	６年間	６週間	２年間	２年間	２～４年間	１年間	４年間
自衛官としてのキャリア	防衛医科大学校卒業	陸海空幹部候補生学校	初任実務研修	病院・衛生部隊等勤務	専門研修	病院・衛生部隊等勤務	医学研究科課程（選抜）

幅広い活躍フィールド

全国の自衛隊病院・衛生部隊での勤務のほか、国内外で幹部自衛官たる医師として活躍できます。

熊本地震に係る災害派遣（2016年4～5月）

ネパールでの国際緊急援助活動(2015年5月)